

知ろうと思おう心

小 三

わたしは、四才のときにベトナムから日本に来たので、日本語もベトナム語も上手に話すことができました。

わたしが小さいころのことです。外国から来た子が、日本の言葉が分からなくて、友だちに「バカ」と言われているのを見たことがあります。ちがう国で生まれて日本語が話せないだけなのに、何でいじわるをするのだろうと思いました。でも、そのときに助けたという気持ちはあったけれども、わたしもバカにされるかもしれないと思うと、助けることができませんでした。

去年^{きょねん}、

ベトナムから転校生が来ました。わたしは、その子が全く日本語を話すことができないので、みんなにおられないか、いじわるをされないか少し心配でした。でも、クラスのみんなは、日本語やおり紙など、日本のことをたくさん教えていました。男の子も日本語を一生けん命おぼえて、ベトナムのことをみんなに教えていました。

その子は、みんなにいつもえがおで話しかけて、だれにでもえがおをとどけているので、みんなもしぜんとえがおになつていきました。それでもおたがいにつたえられないときは、今度は、わたしが通やくをしてつたえました。わたしが通やくすること、みんながつながっていくように思えてうれし

かったです。さらに、わたしがいなくても男の子と通じ合えるようにクラスの友だちが、ベトナム語で「遊ぼう」という意味の、「チヨイ」という言葉をノートにメモをしていました。ベトナムのことを理かいしようとしてくれる友だちの気持ちがうれしくて、わたしはクラスのみんなのことをもっとすきになりました。男の子もにこっとしていました。うれしかったです。

だんだんとなかよくなっていくクラスを見て、言葉が通じなくても、外国の名前であっても、相手のよいところをさがすことができることや、えがおによって心が通じ合うことが分かりました。また、ちがうところを学んで知って理かいして、前向きな気持ちを

もつことで、みんながなかよくなれるということもこのクラスで分かりました。

国がちがうことや、目の色やはだの色がちがうことでいじわるをするのは、とてもいけないことです。人はそれぞれちがうけれど、みんな、まちがっていることは一つもありません。ちがうところをさがしてなかまはずれにするのではなく、ちがうところをたくさん知って理かいてきれば、いやな思いをする子はいなくなると思います。クラスみんながかかわり合おうとするすがたや、前向きな男の子のすがたを見て、わたしも、自分ができることをやりたいと思うようになりました。これから、わたしには、どんなことができ

るか。と考えると、とても楽しみでわく
わくします。やさしい人になりたいで
す。わたしには何ができるかな…。